

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2・3章 番外編 パート4 黙示は交わりの中で示される

---

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://juncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」(黙示録 3:22)

もう一度。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」(黙示録 3:22)

クリスチャンになると、その人のものの言い方や発言内容が根本的に変わります。

と言っても、私が言いたいのは、単に請願をしないとか、下品な冗談を言わないということだけではありません。勿論これらのこともとても大切ですが、主によって変えられた人は、その発言がもっと根本的に変わるということ、もっと大胆な変化です。

神は、私たちの言語の文法から変えてしまうのです。

もう、「私」ではなく「私たち」になり、「私の」ではなく「私たちの」、「私を」ではなく「私たちを」となるのです。

クリスチャンになったあなたは、それまでのように一個人ではなく、団体、集会、協力

隊のようなコミュニティの一員となるのです。実際、創造の初めから、人は個人でいるようには創られませんでした。現代の私たちの文化は個人主義を誇っていますが、それは神のみこころではありません。エデンの園でアダムを見た神はこう言われました。

**「人が、ひとりでいるのは良くない。」(創世記 2:18)**

その後、神はアブラハムにも言われました。

**「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。」(創世記 12:1 - 2)**

「アブラハムよ。あなたは全く新しい国民、集団となるのだ。」

人となってこの世に来られたイエスがガリラヤで教えていた時、「祈る時は、こう祈りなさい。」と言われました。

**「(私たちの) 父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。私たちの日ごとの糧を毎日お与え下さい。」(ルカ 11:2 - 3)**

『私の』父よ。『私に』毎日の糧をお与え下さい。」ではない。「私に」「自分が」ではなく、全て「私たちに」「私たちが」なのです。

パウロはどう言いましたか？

**互いの重荷を負い合い、(ガラテヤ 6:2)**

ヘブル人への手紙の著者はこう言いました。

**ある人びとのように、一緒に集まることをやめたりしないで、(ヘブル 10:25)**

一体となったコミュニティ、国が一つになること、共に働き合うこと、それが全てです。

イエスがヨハネの前に現れた時、彼は七つの金の燭台の真ん中におられました。

**七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの燭台は七つの教会である。(黙示録 1:20)**

つまり、イエスは教会の真ん中におられるということです。七つの燭台が輪になっていたことは明らかで、その輪になった七つの教会の中心にイエス・キリストはいました。

教会の真ん中、中心。そこが、イエスが今も存在し続ける場所なのです。神は、霊の兵士である私たちを一人にはなさいません。イエスが教会、コミュニティの中にいるのです。彼はそこに現れる。イエスの黙示は教会の中で明らかにされるのです。

黙示録 1 章で、イエスをご自身を現された時、ヨハネに、ご自分の様々な特徴を書き留めるように言われました。ヨハネは書き留めて、鍵付きの日記帳にしまい込みましたか？いいえ。

「あなたの見たことを書き留めて、あなたが牧する七つの教会に送りなさい。」

「書き送れ。」つまり、このメッセージは教会全体のものだということです。

ところで、この七つの教会の順番ですが、これは、ローマ帝国時代の郵便配達経路の順番です。この手紙は、ここに書かれている順番で各教会に配達されました。

黙示はコミュニティで共有されるべきものです。そして、2 章と 3 章は、イエスからの七つの教会へのメッセージですが、七つの教会が一つ一つ書かれています。この 7 という数字は完全数ですね。すなわち、“七つの教会”とは全教会史を表しているのです。

黙示録 1 章では、イエスの特別な様子がはっきり語られています。

続く 2 章と 3 章では、七つの教会それぞれに与えられた、特定の黙示が繰り返されています。しかし、完全な集会でない限り、それらの黙示の全容を把握することはできません。

正直なところ、これは、私には引っかかる部分で、私は黙示録を学ぶのが大好きですが、この 2 章と 3 章だけは苦手です。

1 章ではイエスの黙示が語られ、2 章と 3 章では教会史について語られる。

4 章と 5 章で、教会はどこにいますか？「天国。」

時系列で見れば、教会史が終わって、次に起こるのは携挙。

教会は天国に上げられるのです。

教会が、私たちが、無事に天に上げられている間、6 章から 19 章まで、この世はどんな状態になりますか？「大患難。」

そして、20 章から 22 章。イエスは私たちと地上に戻って来て、私たちはイエスと共に千年の間、この世を統治するのです。

その後、遂に、新しい天と地が現れる。ステキですね。楽しみですね。概ねは…。

私個人の人間的な考えで言えば、黙示録 1 章のイエスの黙示から、すぐに 4 章に行ってしまう。2 章と 3 章を飛ばして。

第1章、イエスの黙示。離島で、イエスと私の二人だけの甘い時間、何と素晴らしいことでしょう。そして、4章では天国。いいですねえ。甘く、栄光に満ちている。私は主を愛しており、主の神秘や美しさは、いつ聞いても飽きることなく魅了されます。天国が楽しみで仕方ない。でも、2章と3章は…。

しかし、2章と3章を通らずして、1章から4章に飛ぶことはできないのです。なぜなら、2章と3章での問題は、教会、教会、教会つまり人々だから。それが私を苛立たせるのです。

先日、ある女性の手記を読んでいました。その人は、20代半ばで教会に行くのを止めたそうです。彼女曰く、「不細工な建物、音が外れた賛美、くだらない説教、そして、偽善クリスチャンたちの行為に嫌気がさした。」「人々やプログラム、もうたくさんだ。辟易する。」それで、30年間教会に行かなかった。

私は昨日の午後、書斎でこのことについて考えていました。

そこへ、愛犬のサムが外からドアを引っ掻くものだから、普段はしないけれど部屋に入れたんです。すると、彼は大喜びで部屋に入って来て、私の足元に丸くなりました。それが、5、6分経った頃、突然、体を掻き始め、それから嘔み始めたのです。それで気付きました。「ノミがいる！」慌ててドアを開け、彼を外の暗闇に放り出しました。いいですか？犬と一緒にノミも来る！そういうことです。

“ノミ。”

ノミとは何ですか？神経を逆なでし、不快にさせるもの？イライラさせる問題？

「主よ！1章ではあなたと私、二人っきりで何も問題がなかったんです。だから、ただあなたと私だけで、共に歩いて天国に行きましょう。いいでしょう？」

ところが、主の答えは「ダメだ。」「2章と3章“教会・人々”を通らずして次へは行けない。なぜなら、わたしは父だから。」と神ははっきり言われます。

父は家族の中にいます。この家族というのは、兄弟の争い、夫婦、親子関係のいざこざ、プレッシャーや意地の張り合いなど問題だらけです。しかし、それらの問題が子供たちを成熟した大人へと成長させていくのです。それを父なる神が、家族である私たちになさっているのです。

先程お話しした「不細工な建物、音が外れた賛美、くだらない説教、そして、偽善クリスチャンたちの行為」の故に教会を離れた女性ですが、彼女は今53歳になってようやく気付いたと言います。

「私は自分で考えていたほどには、神を知らなかった。」

「ただ私と神だけの関係だと思っていた 30 年の間に、自分の神学には巨大な空洞が、神のご性質についての理解には、とても大きなズレができてしまった。私が教会に行き続けていたら、それは、避けられていたかもしれない。」

イエスは教会の中心、燭台の真ん中にいます。1 章にそのことがはっきり書いてあります。“燭台の真ん中”

「主が見えない！」人々はあなたや私にそう言うでしょう。でも、主は今まで通り、いつも教会（燭台）の真ん中にいて、教会の中で、且つ、教会を通して見る事ができるのです。私たちはキリストの体だから。

しかし、それだけではなく、主は教会の中で、また、教会に向かって語られます。今みなさんが読んでいる 2 章と 3 章で、何か気付くことはありませんか？ 七つの教会へのメッセージが、同じみことばで終わっていますね。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」

個人にと、神秘的な詩人にと、孤立した兄弟にではなく、主は教会に、また、教会を通して語られるのです。たとえそれが、私にとっては問題の元であってもです。犬が欲しいならノミも受け入れないといけません。同じように、主の声を聞きたいなら、主と共に歩みたいなら、主をもっと知りたいなら、ノミも受け入れるのです。すなわち、私や隣に座っている人をです。それが神のやり方だから。それで、イエスは 2 章と 3 章の七つの手紙、七つのメッセージでそれぞれ、「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」と言われたのです。

昨日、私はこのことについて考えていました。イエスはミニストリーの中で、何度も何度も「聞きなさい。」と言いました。ここでは教会に向かって御霊が語るのです。「耳のある者は聞きなさい。」と。聞くことはとても大切です。では、主の声はどのように聞くことができるのでしょうか。教会の中で聞けます。どこで聞けるのでしょうか。教会で聞けます。

イエスは言われました。

もし、右の目が、あなたをつまらずかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。

(マタイ 5:29)

もし、右の手があなたをつまらずかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。

(マタイ 5:30)

しかし、面白いことに、「耳が、あなたをつまらずかせるなら切り落とせ。」とは言われな

かったのです。手がなくても、目がなくても何とかなる。だが、耳は違う。

そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。(ローマ 10:17)

私にはまぶたがあります。眠い時にはとても便利です。世の中から遮断できるから。でも、耳には覆いがないことに気付いていますか？視界を遮断して眠ることはできます。更に、神は、いつも聞くことができるように私を創られました。もし、夜中眠っている時に誰かが侵入したら、目で見えなくても音は聞こえます。その音によって、私は目を覚まし行動を起こします。もし、聞くことができなかつたら、私は眠り続け、ベッドの上で殺されてしまうでしょう。

聞かなければ。

このように耳はとても大切に、なくてはならない器官なのです。

何を聞くのですか？「御霊が言うことを。」御霊が誰に言うのですか？「諸教会に。」御霊が教会に言うことを聞くのです。もし、あなたが耳を塞いで、「聞きたくない」と言うなら、あなたは霊的に大変危険な状態になり、殺されてしまうのです。

つづく

わが子よ。よく聞いて、知恵を得、あなたの心に、まっすぐ道を歩ませよ。

(箴言 23:19)